

平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 成果報告書

実施団体名 北海道厚沢部町

事業名称 「ちょっと暮らし」によるあっさぶ素敵な過疎づくり事業

1. 事業実施概要

本町では、移住促進により人口減少を食い止める活動をこれまで実施してきたが、その方法には限界があり、これからは人口減少や過疎化の中でも、滞留人口（いわば一時の町民）を増やし、その上で地域の魅力と経済の活性化を進める方策が求められている。

本事業では、交流・二地域居住に特化した情報窓口「ちょっと暮らしナビ」と、電話での情報案内及び質問情報の蓄積によるサービス向上を図る「ちょっと暮らし地域サポートコンタクトシステム」の構築を行い、これらICTの利活用により将来の移住・二地域居住につながる交流人口の増加を図り、もって農村過疎地域における民間主導の新たな地域再生策を構築しようとするものである。

2. 目標の進捗状況

指標	目標値	結果の数値	達成状況	計測方法・出展等
「ちょっと暮らしナビ」アクセス件数及びサイト滞留平均時間の増加	アクセス件数 100,000PV/年	アクセス件数 21,819PV/年	×	アクセス数を計測
物件登録件数の増加	10件/年	23件/年	○	登録件数を確認
質問・問合せ件数の増加	100件/年	316件/年	○	問合せ件数を確認

3. 達成状況が△又は×の場合はその理由

「ちょっと暮らしナビ」アクセス件数については、東京、大阪での移住交流イベントに参加し、積極的なPR活動を実施したところ、一定のアクセス件数を獲得することができた。

しかしながら、移住推進の核となる「ちょっと暮らし用施設」の完成が当初の予定より大幅にずれ込んでしまったため、そのことによって「ちょっと暮らしナビ」の本格的な稼働が遅れ、PPC（クリック課金）・SEO（サーチエンジン最適化）の実施による認知度向上策やメディアミックスPRの実施が遅れてしまったことが目標未達成の要因として大きい。

PPC・SEOは平成22年2月より遅れて着手したが、1日100件台であったアクセス数は300件台に上昇し、実施効果を実感することができた。また、1月以降はメディアミックスPRを本格的に開始し、ラジオ番組での「ちょっと暮らしナビ」の紹介後にはアクセスが増加するなど、メディアの影響も確認できた。

これら活動により「ちょっと暮らしナビ」の認知度は以前より高まったといえるが、今後はアクセスした人が定期的に関連するための仕掛けが必要といえる。静的な情報（いつ見ても変化しない

情報)が多ければアクセス数の維持は難しく、PPC・SEOやメディアミックスの活動も単発的なイベントとなってしまう活動の効果を活用することができないため、何度も見たくなるようなコンテンツを掲載することが必要と考えている。この度の事業では動的な情報(見るたびに变化する情報)として、携帯電話の動画投稿機能などを設け、町民と町外のちょっと暮らし希望者とのコミュニティ形成を図ることを目論んでいたが思うようには活用されなかった。そのため、事務局でブログを開始し、厚沢部町の様子を定期的に伝えることとした。ブログの認知度も徐々に高まり、現在ではコメントもつくほどになっている。

質問・問合せ件数の増加については、「ちょっと暮らしナビ」の認知度が向上することによって、質問・問合せが増加し目標を達成するものと考えている。なお、「ちょっと暮らしナビ」は、移住交流者の集客の起点であり、随時、質問や問合せを誘発するような内容に更新していくこととしている。

<委託業務説明書>

1 平成21年度事業実施において明らかとなった課題

本事業では、移住交流を図るためのちょっと暮らしの促進を図るための情報提供サービスの構築を行ってきた。移住交流に関する情報提供は全国の各自治体のWebページの中で掲載されているが、画一的な情報提供では①何度も閲覧していただく仕組み、②ちょっと暮らしへのアクションを起こしていただく仕組み、について不十分であったといえる。本事業で構築した「ちょっと暮らしナビ」では、地域住民が携帯電話のムービー機能を活用して動画の投稿をできるようにするサービスを提供し、よりリアルな町の状況をちょっと暮らし希望者に知っていただくことができるが、そのためのインセンティブ付与に関しては検討の余地がある。移住交流を促進するためのサービス提供は地域住民の協力なしでは実現が難しい。住民参画の促進を図るための仕掛けが現在の課題のひとつであるといえる。携帯電話によるムービーの投稿は、「ちょっと暮らしナビ」で活きた情報量を増加させることにもつながる。何度も閲覧していただくためには、このような、訪問するたびに情報の内容が増えたり変化したりするコンテンツが重要である。

移住・交流に関する情報は現在の「ちょっと暮らしナビ」でもかなり多い量といえ、アンケート結果でも動画の量や時間などについては多いという意見が多かった。これら情報からちょっと暮らしの申込につなげるためには、ちょっと暮らし住宅に宿泊した人の生の意見を掲載する機能を設けるなどが効果的であると考えられる。現在も動画によるちょっと暮らし体験者の声が紹介されているが、これが投稿という形式で批判的な意見等も公開されることで信頼性を一層高めることができ、他地区との競争という点においても十分耐え得る情報提供になるといえる。

上記の課題については来年度以降の対応として今後検討していきたい。

2 自律的・継続的運営の見込み

「ちょっと暮らしナビ」には収益を生み出す事業モデルが存在していないため、本事業の運営に係る費用は本町の財源に依存することになってしまう。将来的な自立運営を実現させるためには、「ちょっと暮らしナビ」「地域サポートコンタクトシステム」を活用した事業の創造が不可欠といえる。具体的には、厚沢部町内の特産物を集約したインターネットショッピングといったような、外部から収益を得られるモデルが必要といえる。

本事業で提供するサービスの特性上、町内に建設したちょっと暮らし住宅の体験者の募集を Web 上で実施し、建物の運営管理も併せて実施することでひとつの事業とすることができると考える。そのためにも、「ちょっと暮らしナビ」上では、ちょっと暮らし住宅に関する情報提供と入居者募集に関する宣伝活動を強化することが重要である。

また、新築の個性的なちょっと暮らし住宅が 4 棟あるという点を活かし、ちょっと暮らし住宅を巡るツアーを有料で開催するなど、他の自治体では実施が難しいことについても着手することができる可能性がある。

また、「地域サポートコンタクトシステム」については、本事業では機能の一部しか活用されていないため、十分な機能の活用を図り、事業の創出に結び付けていくことも重要である。電話履歴の記録や、顧客登録された人の 2 度目以降の電話受付を円滑にする機能は、多くのリピーターが発生するサービスに対して有効である。そのため、町民を対象としたサービスの提供についても有効であると考えられる。町民の買い物代行サービスや、あいのりタクシーの受付業務など、考えられる業務は幅広いといえる。

3 今後の展開方針

平成 22 年 2 月に、ちょっと暮らし住宅が 4 棟完成した。メディアミックス PR 活動等により、平成 22 年度の夏季の予約については既に予約で埋まった住宅もあり、事業の出だしは好調であるが、今後の課題としては、①入居者の厚沢部町内の滞在により地域経済の活性化を図る方法、②翌年以降もリピーターとなっただけ方法、③オフシーズンとなる冬季の滞在を増やす方法、④新規顧客を増加させる方法、これらについて検討することが必要といえる。

①については、何の工夫もなければ地元での消費が期待したほど行われぬ可能性がある。地元の飲食店等の魅力を伝えるほか、ちょっと暮らし滞在者のニーズに合致したサービスを新たに開発して消費を促進する仕掛けが必要といえる。

②については、地域住民との人間関係が重要といえる。アンケート結果でも、印象がよく住んでみたいと思った地域については「地元の人が温かい」という意見が大半を占めていた。ちょっと暮らしの地域を選ぶ動機については、自然環境の豊かさや気候、立地というものに左右される部分が多いが、リピートする条件は地元の人とどれだけ仲良くなり、また地元の人に会いたいと思う気持ちの大きさが、自然環境以上に重要であるといえる。そのためには定期的に交流会を開催したり、馴染みの飲食店や友人をつくる仕組み作りなどが求められる。

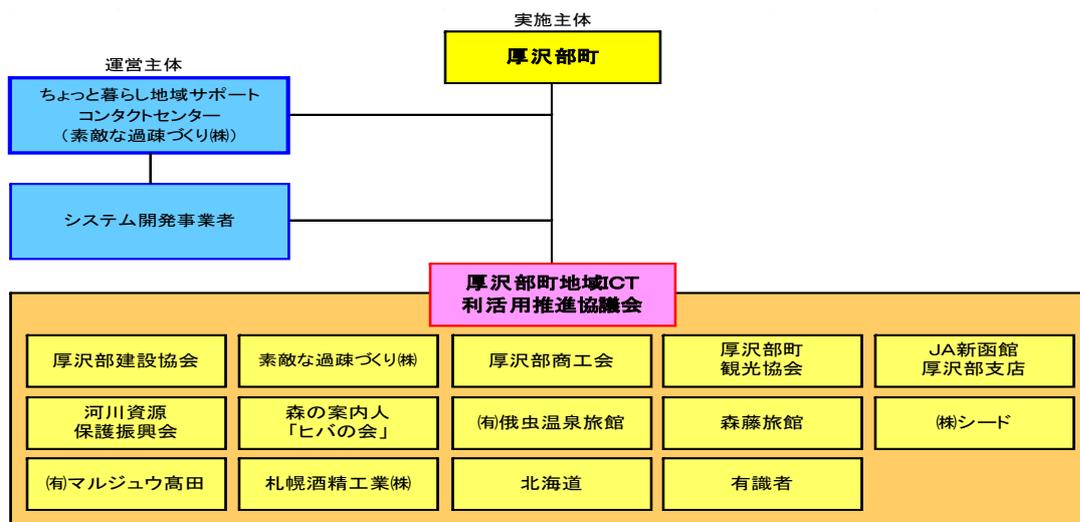
③については、冬季の生活の体験をサービス化したり、冬季の魅力を前面に打ち出す企画と連携を図ったりすることが一つの方向性として考えられる。ウィンタースポーツに興味を示す人の誘致など、様々な企画を試行錯誤することが必要である。冬季のちょっと暮らしの誘致については、ほとんどの自治体では厳しい状況にあり、その間の住宅予約も空室が目立つ。夏季と同様の気候の快適さは提供できないため、冬季は積極的に企画を立てて実施することが重要といえる。

④については先述の通り、入居者には感想を「ちょっと暮らしナビ」上に記載していただくことで、クチコミ情報として蓄積を図り、入居を検討する人への情報提供を図るなどして潜在顧客に働きかけ、新たにちょっと暮らしをする人の開拓を図る。

その他、「ちょっと暮らしナビ」へのアクセス増加を図るため、PPC、SEO 対策を引き続き行うほか、システムについても必要な部分において改修の実施を検討する。

<実施体制説明書>

1 実施体制



2 各主体の役割

No	名 称	役 割
1	厚沢部町	事業の実施主体、広報活動
2	厚沢部建設協会	事業運営の主体 ちよっと暮らし施設（二地域居住施設）の建設
3	素敵な過疎づくり(株)	事業運営の主体、総合窓口 ちよっと暮らし施設（二地域居住施設）の運営管理
4	厚沢部商工会	事業の運営／サービスの検討
5	厚沢部町観光協会	事業の運営／サービスの検討 町内の事業者情報（飲食店、宿泊施設等）の収集と提供
6	J A新函館厚沢部支店	商品の企画・販売
7	河川資源保護振興会	厚沢部町の各種情報提供、サービスの検討
8	森の案内人「ヒバの会」	厚沢部町の各種情報提供、サービスの検討
9	(有)俄虫温泉旅館	サービスの検討及び提供
10	森藤旅館	サービスの検討及び提供
11	(株)シード（うずら温泉）	サービスの検討及び提供
12	(有)マルジュウ高田	サービスの検討及び提供
13	札幌酒精工業(株)	サービスの検討及び提供
14	北海道	他地域の活動（事例）に関する情報提供、広報活動支援
15	外部有識者	ICT の利活用に関する助言

事業実施進行表

実施内容	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	H22	1月	2月	3月
	協議会等設立・準備会合	→									
協議会・WG 会議の開催			△								△
システムの内容検討・決定	→										
システム構築に係るプロポーザル	→										
システム設計・構築	→										
宣伝活動の実施					→		→				
掲載情報の収集		→									
運営組織職員業務研修				→							
システム稼働 (サービス開始)					→						
アンケート調査					△	△					
ネットワーク調査					→						
報告書作成								→			

その他

本事業により構築したウェブサイト又は本事業を掲載したウェブサイト

[1] <http://sutekinakaso.com> [厚沢部町 HP]

平成21年度実施 地域ICT利活用モデル構築事業 システム設計書

実施団体名：北海道厚沢部町

事業名称：「ちょっと暮らし」によるあっさぶ素敵な過疎づくり事業

1 概要

本事業では「ちょっと暮らしナビ」と「地域サポートコンタクトシステム」の構築を実施した。

「ちょっと暮らしナビ」は、厚沢部町へのちょっと暮らしに興味を持つ人の増加を図るための情報提供及び関連物件の検索・管理システムである。ちょっと暮らしが可能な短期滞在者のための情報は、通常の不動産物件と比べて得られる情報量が格段に少ない。本事業ではシステム構築のほか、全道・全国で同様の取組を実施する地域と連携を図り、短期滞在者向けの物件情報を一元化して、Web サイトへのアクセス増加と情報提供の質の向上を図る。

「地域サポートコンタクトシステム」は、ちょっと暮らしや移住に関心のある人が、情報収集のためインターネットで情報サイトを閲覧する際に、滞在のための宿泊施設の詳細な情報や自治体のサポートサービスの内容、実際に滞在する地域の暮らしの環境等、多岐にわたる様々な疑問点などを電話で問い合わせる際に、円滑な電話応対を実現するためのシステムである。

2 運用結果

「ちょっと暮らしナビ」及び「地域サポートコンタクトシステム」の構築目的は、厚沢部町のちょっと暮らしに興味・関心を持つ層に情報提供を行い、住宅の滞在申込につながることである。アクセス数及び電話問合せ、ちょっと暮らし住宅の滞在申込の結果は以下の通りである。申込件数は8件と、他地域と比較しても非常に多い結果となり、電話問合せも当初目標の3倍以上の結果となった。

- | | |
|--------------------------|----------------|
| (1) ちょっと暮らしナビアクセス数 | 18,826件 |
| (2) ちょっと暮らしナビセンター〔電話問合せ〕 | 316件(10月17日～) |
| (3) ちょっと暮らし物件申込件数 | 8件(平均滞在日数 25日) |

3 課題・改修の必要性

システムの改修要望については36挙げられた。その中で改修が可能なものについては、平成21年11月以降に改修を行った。残りについては運用で対応したほか、平成22年度以降に町が新規事業を実施する際などにコンテンツの追加などを実施することを想定している。

4 その他

平成22年度以降は町及び町出資の第3セクターが中心となって事業を推進するため、システム管理や情報更新、新たなコンテンツの作成などの業務を担当職員が学習する予定である。